



# とうほうの風

～ やさしい心 丈夫なからだ みんな仲よく ひとりだち ～

令和7年(2025年) 9月1日 発行

## 必ずある「自分の虹」をみつけよう！

～ 今年しかない、実りある2学期へ ～

【園長：田川隆司】

夏景色のカレンダーをめくると、挿絵とともに9月をむかえました。

昨日8月31日は、「立春（今年は2月3日）」から数えて210日目の日。いわゆる「二百十日」と「二百二十日」、そして旧暦の8月1日（新暦で今年は9月22日）の「八朔（はっさく）」は、いずれも台風の害に警戒が必要な日として「農家の三大厄日」と呼ばれました。

たださえ酷暑の高気温や水不足で農家の皆さんは大変な最近の夏ですが、過去の歴史が物語るように、自然の恩恵に左右されるお仕事にとって、「収穫の秋」を前にしたこの時期のもつ意味は大きいと感じます。国内の最高気温が各地で次々と「更新」される中、その地にお住まいの方のインタビューから『日本一はうれしいけれど、こんなことで日本一にはなりたくないなあ』といったお声はもっともだと感じずにはいられませんでした。



東邦幼稚園はというと、2号認定児のお子さんたちは、この夏休み中も朝早くから元気に登園していて毎日にぎやかでしたが、他のお子さんたちはいかがでしたでしょうか。毎朝、同じ時間に「放課後こどもクラブ（学童保育）」に通う近くの小学生とも日々挨拶を交わすのですが、猛暑・酷暑の中、日傘を差し“登校する”彼らの「夏休み」もきっと大変だっただろうなあと感じてしまう私です。「ひと夏の思い出」とはよく言いますが、幼児期の経験の差は、青少年期と比べると後々覚えていなくても、彼らの“ここ”の奥に強く影響していることを保護者として忘れないでください。

既に8月25日(月)から「夏期保育」が始まっていたので、「生活のリズム」も1学期のように整っているお子さんが多いと思いますが、「ひと夏の思い出」とともに、2学期も日々の「生活のリズム」を大切にしてほしいと願っています。（「早寝・早起き・朝ごはん」ですよ）

さて、古典の世界での旧暦9月の異名は「長月（ながつき）」と言います。子どもたちも早ければ小学校で（中学校では必ず）教わり、だんだんと日暮れが早くなり始め、夜の時間が長くなることで「夜長月」と呼ばれたことから「長月」となった説が有力視されていますが、月の異名のいわれは様々…。個人的には「彩月（いろどりつき）」や「色染月（いろそめつき）」という表現が気に入っていますが、ほとんど知られていないのが残念です。

暑さと言えば、科学的にあれこれ説明されなくとも、地球規模での異常気象は誰もが感じる近年、この「酷暑」には心底困ってしまいます。水不足の切実なニュースは農作物への影響が否めず、逆に災害級の局地的豪雨（線状降水帯）による被害など、日本という国が今まで経験したことがないような天候が続きますが、それでもやがて寒く厳しい冬がやってくる「自然」というものは本当に不思議ですね。

そのような中、これからの東邦幼稚園は、年少中の各「遠足」や年長組の「デイキャンプ」。そして、今年は少し時期をずらした「運動会」（今年も桜塚小学校をお借りします）。その後には「制作展」や「クリスマス祝会」という大きな行事が続きます。それぞれの目標にむかって「チャレンジ」し“あきらめない”で“自信を持つ”ことや友だちと協力する「集団づくり」が新たな一歩を踏み出す時期。園児たちが各種目、舞台に出場・出演するだけでなく、少しずつ工夫（学び）しながら「主体的」に行事に参加し、たとえ失敗をしても最後には“やり切った”という「達成感」を味わい、その向こうに見える「新しい自分」にご家族とともに出会えると信じています…。昨今の便利な「オンライン」という文明とは異なり、なかなか味わえない集団の中で育まれる自分づくりの“醍醐味”ではないでしょうか。



ところで、みなさんにとって「虹の色」は「いくつ」に見えますか。一般的には7色「赤・橙・黄・緑・青・藍・紫」と言われていますが、ほとんどの人は色が混ざり合い、4 ないし 5 色しか見分けがつかないものです。実際にヨーロッパの国では5色だと言われている国もあります。虹は見る人によって違うんですね。なぜなら、見る人の位置で異なり、雨滴と太陽光線の角度も違ってくる上に、見ている雨滴の並びぐあいもそれぞれ異なるからです。虹の美しさに心を奪われる時、あなたは二つと

ないもの、つまり「あなただけの虹」を見ているのです。

ドナルド・E・スーパー氏という人によれば、人生には大きく「8つの役割」があるとしています。

→「子ども・学習者・親・余暇人・市民・職業人・家庭人・その他の役割（年金生活者、余生を過ごす）」

ほとんどの人は、これら「8つの役割」を経て人生を過ごします。これらの役割の重なりや相互関係を形にしたのがライフキャリアの虹、いわゆる「ライフキャリアレインボー」と言われています。歳を重ねるごとに役割の重なりは増えていきます。職業人としてのキャリアが十分でも、家庭人、市民としてのキャリアに不十分な部分があれば、トータルとしてのキャリアは崩れトラブルも生まれてきてしまいます。「自分の虹」の一番内側になる「子ども」時代の経験が、今後のキャリア形成に大きくかかわってくることは言うまでもありません。そして、子どもたちがこれから「自分の虹」をどのようにして鮮やかなものにしていくかは、まだまだ始まったばかりです。卒業証書を巡る疑惑への回答を微妙なニュアンスでさらにつじつまの合わないことを並べる人、選挙の街頭演説と言いながら人を死に追いやるまで誹謗中傷を繰り返す人や核武装が一番安上がりだと平気で論じる政治家たち。「応援してくれる人がいる、やめないで欲しいと言われている」等と根拠に乏しい発言をする人、そして、見知らぬ人までも身勝手極まりなく“殺（あや）めて”しまう人など…彼らの幼児期はどんな子どもだったのか、どんな人と出会い、そして、その後どんな育ち方・生き方をしてきたのでしょうか。

本園がめざしているのは「やさしい心 丈夫なからだ みんな仲よく ひとりだち」です。

これからの行事をはじめ、日々の生活の一つひとつに、園児のみなさんとご家族が“東邦幼稚園に通ってよかった”という思いと“誇り”を持って、「豊かな心と感性」を育てて欲しいと常に願っていますが、昨今のニュースから流れる情報は、決して子どもたちにとって“望ましい未来”の姿ではないものが増えすぎて心配することばかりです。私が見た1970年の「万博」での感動と興奮、そして「未来への憧れ」は、2025年の現代社会では様々な形となって本当に“実現”されてきました。その反面、あとを絶たない戦争や日々報道される殺人事件や強盗事件（詐欺行為も）をはじめ、身近なSNSで飛び交う誹謗中傷の汚い言葉や簡単に流れ出るフェイク動画の嵐に振り回されないよう、未来ある子どもたちが「真なる自分」をどのように築いていくかが心配です。

日々の平和はもちろんですが、当たり前にはできることには必ず“感謝”し、精一杯取り組んだ先には、きっと大きな「自分だけの虹」が見えることを信じています。

## 【『戦後80年』 “継承” が課題と言われるが…】

「戦後80年」にあたる今年、太平洋戦争(第二次世界大戦)を直接経験した人々がわずかとなっている中、“継承”という「語り伝えていくこと」の重要性がクローズアップされてきました。

8月6日の広島、8月9日の長崎、二つの「原子爆弾」という核兵器が人類史上初めて人に対して使用され、その後、8月15日に無条件降伏で終戦を迎えました。(終戦を知らず戦い続けた人も…)

私を含めた東邦幼稚園の職員全員、そして保護者の皆さんも直接経験した人はいません。しかしながら、お身内であったり知人であったり、何かしら関係を持たれている年配の方からお話を聞く機会は数々あったかもしれません。他国では珍しい「平和教育」を義務教育で必ず行い、様々な視点から詳しく学んだ人もいないかもしれません。8月15日に久しぶりに放送された「火垂るの墓」を、この日だけは子どもたちも夜更かしを許され、ご家族でご覧になった人もいないのでしょうか。園児と同年代の「節子」や兄「清太」の死に大きなショックを抱いた人も多いと思いますが、あの作品から学べることは、解釈を含め見る年代(親になってからも)によってまだまだ沢山ありますので…。

私の亡き母(昭和4年生まれ)は、戦時中、大阪市の城北通り本庄東あたりに住んでいました。大編隊のB29 爆撃機による「大阪大空襲」で雨のように降る“焼夷弾”で焼き出され、背中に大やけどを負っていることにも全く気づかず、長柄橋の方へ皆で走って逃げて行く途中『もうしんどいわ、死んでもええわあ』と力尽き淀川の手前で立ち止まった時、戦闘機からの“機銃掃射”を受け、すぐ横を走っていた人が撃たれて即死したことや淀川を燃えながら流れていく多くの死体やその匂い、焼き尽くされていく街の話を何度もしていました。事実、母の背中是一片ケロイド状態だったのですが、不思議にも私はそれが当たり前の母の肌、母の姿として湿布を貼ったり薬を塗ったりする時もずっと“その背中”を見てきました。

亡き父(大正14年生まれ)は、生後まもなく祖母の不注意から足に大やけどを負い、左足のくるぶしから先が肉の塊になった、いわゆる障害を持つ身として育ち、徴兵検査で「役立たず」(他の酷い言葉も含む)と罵られ、幼少期はもちろん、戦時中もかなりつらい思いをしたらしく戦争のことやその他の偏見差別については、一切語ろうとはせず、私には『子どもから目え離すなよ。床に危ないもんがないか、注意してよう見とれよ。』と繰り返して聞かされていました。ただ、仲の良かった兄や親戚、友人のように“勇ましく”戦争に行けなかった悔しさからか風呂の中でただ一人「軍歌」をよく口にしていたのをはっきり覚えています。

母の兄、父の兄、つまり、私にとって確実に血のつながりのある“おじさん”という身近な人も、私が生まれるずっと前になりますが、皆それぞれ若くして「戦死」しています。それも「南方」や「北支」としか聞かされていないようで、遺骨もなにもなかったとのことでした。

さて、今も世界のあちらこちらで「戦争」が行われ、兵隊はもちろん、多くの子どもたちが命を奪われている事実を知り、考え、ご家族でこの国の未来に対する「平和を考える時間」をお持ちでしょうか？

今や「情報」は、どんなこともどこにいても素早く“検索”できる時代ですが、自ら得ようとしないう情報や間違いではなく“だまそうとする”フェイクの情報までもがあふれかえっています。どんどん難しくなりますが、何が正しくて何が本当なのかを“見極められる”ことがより大切になってきた時代です。(清太の行動も…)

世界情勢がきな臭くなってきていますが、過ちを繰り返さないことは我が国が一番世界に発信していかなければならないと思う中、より平和な未来を築いてくれるであろう今の園児たちにとって、かけがえのない幼稚園生活を実りあるものにするために東邦幼稚園の先生たち職員は、日々一生懸命頑張っています。

しかし、どんな時代でも保護者当事者たる“親”であるみなさんがしっかりしていないと…。

あなた方保護者の言動を、背中を、必ず子どもは見て聞いて感じていますからね。